

令和3年第418回信濃町議会定例会2月第2回会議会議録（4日目）

（令和3年2月19日 午前10時56分）

●議長（森山木の実） 休憩を解き会議を開きます。通告の7、石川広之議員。

- 1 病院建設について
- 2 コロナ感染症での対策などについて
- 3 電力購入について
- 4 選挙公営制度について

議席番号5番・石川広之議員。

◆5番（石川広之） 議席番号5番・石川広之です。昨年よりコロナウイルス感染症により、信濃町また議会をはじめ、町内での団体、学校の一時休校、また企業など観光宿泊と、ありとあらゆる面での活動の自粛、また中止と、そして家庭でも大きな災害となって、このコロナウイルスが襲ってきました。この感染症、水害、地震とは違い、全国世界での同時発生となり、対策、対応に追われる1年でした。また現状はこれからワクチン接種などの開始をはじめ、いかにこの感染症が終息する時期を迎えるという、長丁場になる、これからだと思います。またそれぞれの対策をお願いしたいと思います。

それでは、ある程度3密が避けられる去年は農業でありましたが、生産にはさほど、この感染症、支障もなく収穫ができたのではないかと思います。順調に進んだ農業ですが、7月の長雨により、野菜、特にとうもろこしは生育不良と生産量不足と大きな被害となりました。水稻も作況が良いと思われましたが収穫し、初めて収穫量不足となり、これも7月の天候が影響したのではと思われまます。また令和2年、1番の被害は多分そば生産ではなかったかと思えます。これは天候に左右されたわけではありません。収量も近年になく、大変豊作となりました。これは全国的に、特に北海道での豊作が長野県、信濃町でもそうですけれども、収穫が始まった頃には既に信濃町産をあてにすることなく、北海道産で手立てをした全国の事業者が買い取りをせず、またオリンピックの開催などや、善行寺御開帳の延期などにより、町内生産のそばの販売が思うようにできていません。このようなことから生産者よりの買い取り価格は平年の3分の1という低価格となりました。それよりもまだ深刻で重要なことは、この信濃町には今60トンを超える行先のないそばの在庫があるということです。町は、令和3年度は信濃町のそばのブランド化をと予算組みをしてきました。現実は今ある在庫をどのようにするのが最大の課題となっています。年が明ければ、そばの流通はほとんどしません。この問題に関していろいろ検討していただければと思います。この件につきましては通告にありませんから以上とします。

さて、通告の中に病院建設についてとあります。先のアンケートでは町民は、病院建設については多数の皆さんが賛成という結果が出ました。スケジュールも建設へと進ん

令和3年第418回信濃町議会定例会2月第2回会議会議録（4日目）

でいます。計画当時から現状の人口、営業時の移り変わり、また人口の推移など、どのように見えていますか。また開業時に利用者の増を図ることはできるのですか。開業時ではなく、今すでに利用者の増へ向けるべきではないかと思います。町としての考えをお聞きします。

●議長（森山木の実） 横川町長。

■町長（横川正知） 石川議員のご質問にお答えをさせていただきます。今、進めております、病院建設についてのご質問かというふうに思います。現状、それぞれ今、今年度の令和3年度の予算でもお願いしておりますが、今年度と言いますか令和3年度において基本設計をするという方向でございますし、引き続いて実施設計に結び付けていきたいということでございます。ご心配いただいておりますことに、ありがたいなというふうに思うわけでありますが、この計画策定にあたりましては、それぞれ、人口の将来的な推移と言いますか、そういったところ、それから、患者数の将来に渡っての見込み、これらを厳格にと言いますか、反映させていただいて、再整備の事業の基本構想、基本計画としてまとめさせていただいて、現在に至っているということでございます。細かな部分については、ちょっと省かせていただきますが、現状の将来に渡っても病院における利用者についてもお訊ねでございます。現状、やはり令和2年度の病院の利用状況、先ごろ本議会でもお願いしております補正予算のご審議も通じて、ご指摘もいただいているわけでございますが、大変、コロナ影響下の中で、厳しい経営状況にあるということは現実でございます。しかし、一般的に外来の患者さんが、約1日平均で200数十名、それから入院でもそれなりの人数を確保してやってきているという状況でございます。私は、この自治体病院としての信越病院、この病院があるという、このことを町民の皆さん方にも是非また、この機会に改めて認識という言い方は大変失礼でございますが、理解をいただきたいなというふうに思います。そういった意味では、良いドクターがおりますので、是非地元の病院に必要な時にはかかっていたくということを、是非お願いしたいなというふうに思いますし、この私自身も開設者の立場としても、しっかりと病院の経営が今後とも安定的に経営されるように、職員の皆さんと一緒に努力をしていきたいというふうに思っております。以上です。

●議長（森山木の実） 石川議員。

◆5番（石川広之） 新たに建設する病院、またそれと、これからは利用者の増、診察を受ける皆さん、またベッドなりそれぞれが空かないような対策をするということで、その中でも現状として、どうなのでしょう、病院の利用者、数字的にお聞きができるのでしょうか。お伺いします。課長、お願いいたします。

令和3年第418回信濃町議会定例会2月第2回会議会議録（4日目）

●議長（森山木の実） 外谷場病院事務長。

■病院事務長（外谷場佳子） それでは数字的なことでございますので、私の方から答えさせていただきたいと思っております。今、現在、第6号補正でも人数、事業量の変更をさせていただきますが、令和2年度につきましては、まだ年度途中ということで、そのことをご理解のうえ、お聞きいただきたいと思います。まず、入院患者様の人数につきましては、令和元年度の決算では1日当たり69.4人という数字が決算で出させていただいたところでございますが、今年度12月末現在での1日当たり平均入院患者数は63.9人でございました。また外来患者様につきましては、令和元年度の決算では、1診療日あたり、205.1人でございましたが、令和2年度につきましては、同じく12月末現在で203.7人という数字でございます。外来患者様につきましては若干落ちておりまして、今ほど長も話の中でふれましたが、今年度につきましてはやはりコロナの影響がかなり入院患者様についてもあったということでございます。例年ですと補正予算の際にもご説明をさせていただいたと思うのですが、下半期、後半に入ってくると風邪症状あるいは肺炎症状等で入院患者様が増えてくるという状況があったわけではございますが、本年度は皆様、それぞれご家庭あるいは出先、職場等で感染対策をしっかりなされていたようで、例年に比べますとそういった風邪症状、肺炎症状で入院される方がかなり減っているというのが実態でございます。そういった意味では、今年度、特殊要因もあったのかなというふうには考えております。ただ、この先令和3年度も今の現状が続く中では、なかなか数字的には厳しいかなという感じも受けているわけでございます。ある程度今の状況が収束すれば、通常通りになっていくのではないかと、患者様、病人のことですので、こういった表現は正しくないかもしれませんが、そういうことも考えているところでございます。以上です。

●議長（森山木の実） 石川議員。

◆5番（石川広之） ただ今信越病院に関して、答弁されました。さてこれ、町全体としての人数をお聞きするとすれば、住民福祉課長ですか、お願いします。

●議長（森山木の実） 石川議員、町全体の何の人数ですか。

◆5番（石川広之） 町全体の患者、ほかの病院にかかっている人の人数を把握できているのか、またお聞きできる状態でののか、お伺いします。

●議長（森山木の実） ほかの病院と信越病院を合計して。

◆5番（石川広之） 今、信越病院にかかっている人数はお伺いしたので。

令和3年第418回信濃町議会定例会2月第2回会議会議録（4日目）

●議長（森山木の実） それでは、ほかの病院、分かりますかね。それでは、柄澤住民福祉課長。

■住民福祉課長（柄澤 豊） ほかの病院へかかっている人数等は把握してございません。信越病院にかかっている患者さんについては、今、事務長が申し上げたとおりだと思いますけれども、また、信越病院には妙高市の方からも患者さんで来ている方もおられますし、今、若干、中野市さんよりですか、そちらの方から来られる方もおられるというふうに認識しております。ちょっと数字的なものは掴んでいなくて申し訳ないのですが、お願いしたいと思います。

●議長（森山木の実） 石川議員。

◆5番（石川広之） 信越病院の利用者、また新たな病院になった時には他病院にかかっている人数も大変重要なひとつの項目だと思います。今は把握していない、また、ある程度の把握はできているけれども、なかなか数字に表せないかというふうには思いますけれども、是非、その辺のところもしっかりと発表できるような体制を取っていただきたいなと思います。いつまでも発表できないではちょっと新たな病院に向かっても対応の仕方が違うのではないかと思います。それでは、昨年、議会の全員協議会の中で、町長はコスモス病棟を残すというようなことを言われたような気がします。解体の中で、そのようにお伺いしました。また残すことの意はどこにあるのか、どのようなことでのようなことを言われたかお伺いします。

●議長（森山木の実） 横川町長。

■町長（横川正知） 病院はご承知のとおり、次のステップの場所ということで、新たな病院を建設することで今、進めさせていただいているわけでございます。現病院の病棟、そしてまた、今言われましたその後に増築をしましたコスモス病棟、現実あるわけでございますが、この関係については、残すというよりも、どういうふうな利用方法ができるかということが課題ではないかなというふうに思っています。そういう面では単純に壊して良いという話も、あまりにも短絡すぎる話かなというふうにも思いますし、それぞれまた建築当時の起債を借りたまだ残額も残っている部分もありますので、その辺も含めて後利用についてはどういうふうにするか、今後検討するという課題だというふうに思っています。

●議長（森山木の実） 石川議員。

令和3年第418回信濃町議会定例会2月第2回会議会議録（4日目）

◆5番（石川広之） これから検討していくということで、また、今ある施設、あるいはあれを見ると、同じようなことをする、あるいは同じような事業でしか利用ができないかなというふうには思いますし、また町もそのように考えているのかなというふうに思います。この件に関しては、新たな病院が開設するまでには解決し、また利用者、あるいは事業者が出てくる、あるいは見つけるというようなお考えですか、町長。

●議長（森山木の実） 横川町長。

■町長（横川正知） 今、具体的な動きとして、そのような動きをしているわけではございません。しかし色々な中で、今、社会情勢を鑑みて利用したいというような状況がもし民間的に出てきたり、あるいは公的にも、どういうふうに活用するかということも含めて、その段階で後利用を考える前にも、そのような話が出てくれば、それはそれとして、また対応を考えていきたいというふうに思っております。

●議長（森山木の実） 石川議員。

◆5番（石川広之） 利用者、あるいは事業者が出てくれば、有効利用をしたいということでもよろしいですね。これも新たな病院建設にあたり、まだ病院の設計の段階では基本設計の段階には入っていないというような話をされました。その中で病院、この頃病院を作るとホテルのようなフロントであったり、ロビーであったり、なかなか立派な病院というイメージもあるのですけれども、町とすれば、そのような考え、そのような設計というような考えがあるのか、また、頭の中にあるのか、お伺いいたします。

●議長（森山木の実） 横川町長。

■町長（横川正知） ちょっと細かい分野については、今、申し上げられない部分もあるのですが、基本的には、信濃町という約年間の4分の1くらいですか、この豪雪地帯でもあります。そういった中でそのようなことに十分配慮した建物構造にするということが、これは土地柄として大事な要素だと、それから、私は常々お願いしているのですが、先ほど石川議員さんから、その華美なというような表現があって、豪華なと言いますか、私は実務的に本当に活用しやすい、何と言いますか、えらい外から見て立派な派手なデザインだとか、そういうことではなくて実務主導として、しっかり医療本質に対応していただく、そのような設計が基本的に大事なかなというふうに思っています。そのようなことも含めて、いくつかの条件の中で今、設計業者等々の選定作業を進めているということでございます。

●議長（森山木の実） 石川議員。

◆5番（石川広之） 町長のほうから基本設計に向けてのひとつの筋が出されたと思います。

続きまして、コロナウイルス感染症での対策で多岐に渡り給付金が国より給付、または支給されております。これも2月15日から既に申告相談が始まっています。町への町内それぞれ受益者、これ支給されたり給付された方々の把握はできているのでしょうか。お伺いします。

●議長（森山木の実） 丸山産業観光課長。

■産業観光課長（丸山茂幸） 経営継続補助金の関係ですが、国の二次補正で事業化された補助金でございまして、新型コロナウイルス感染症拡大によって影響を受けた農林漁業者を対象とした補助金でございます。内容につきましては、農林漁業者がこれから販路を回復していく、また開拓していく、また事業展開や継続のため機械や設備の導入をするための事業に支援していくというような事業になってございます。基本的にはJA等の支援機関等の支援を受けた計画書を作ることが条件となっておりますが、この事業につきましては一般社団法人全国農業会議所が執り行っていますので、そのホームページから信濃町の対象の事業者の方を確認したところ、1次募集、2次募集で、全部で19団体が対象になっているということです。

●議長（森山木の実） 石川議員。

◆5番（石川広之） 分かりました。もっとたくさんの申請があったかなというふうに思いましたけれども、19団体ということですね。同じコロナウイルス感染症についてですが、このワクチン接種について、お伺いします。このワクチン、それぞれ昨日も一般質問の中でだいぶ質問されたり答弁をいただいた中で、ちょっとほかに、これはと思うところを質問させていただきます。このワクチン、はしか、百日咳などと違って、長期的な予防にはならないということが示されていますし、そういうものだとして私どもも認識しています。となると、このワクチン、インフルエンザと同様、また毎年のように打たなければならないワクチンであるというふうに認識しています。その中で昨日もこのワクチンの接種するところは、一応旧古間小学校の体育館であったり、古間の地域交流施設を利用していきたいというような答弁でありました。その中でもこのワクチン、毎年のように3密を避け、隔離をしなければならない、またほかの患者とは一線を離さなければならないということになりますと、この施設のある程度恒久的な面も考えなくてはならないかなというふうに思いますけれども、その辺はどのようにお考えですか。

●議長（森山木の実） 柄澤住民福祉課長。

令和3年第418回信濃町議会定例会2月第2回会議会議録（4日目）

■住民福祉課長（柄澤 豊） ワクチンの特性でございますけれども、国から、私どもに
来ている通知等、その内容の中には、毎年打たなければいけないものかどうかという、
そういった項目はございません。今年度、令和3年度に接種していくのだという中で、
今現在、2月14日にファイザー製のワクチンが認可を受けまして、承認をされまして
医療従事者から接種していくのだということでございます。報道等でもあるように、か
なり効果は高いようでございまして、その今後どういうふうに、恒久的にワクチンを接
種していくのかどうかということは、我々自治体の方にその情報はないわけございま
す。そのようなことでお願いをしたいと思います。

●議長（森山木の実） 石川議員。

◆5番（石川広之） 国の方からまだ示されることもないということと、またこのワクチ
ンは、このコロナウイルスが終息さえすれば、ワクチンを打つ必要もないし、またそう
いう施設対応もする必要がないと思います。またそれに向けての対策をしっかりと、皆さ
んで考えていくものだと思います。さて、ワクチン接種は、昨日も答弁の中にありま
したが、医療関係者から先行してやりますということでお聞きしました。ワクチンは今の
ところ、ある程度接種しても安全性であったり病的なものが出てくることは、今、現実
とすればないということですが、この医療関係全員が一斉に接種するような考え
なのか、また危険を回避しながらも順次というふうに考えていますか。

●議長（森山木の実） 柄澤住民福祉課長。

■住民福祉課長（柄澤 豊） 医療従事者につきましては、当町は信越病院ですとか、町
内に歯科医院もございます。私どものほうは、確実に把握はしていませんのでけれども、
もう病院さんのほうには、そういう多分契約行為でありますとか、そういうものが、調
査を行っていると思うのですけれども、基本的には希望者、ほとんどの人が希望される
のだと思いますけれども、希望者を信越病院の院内で打っていくのだというふうにお聞
きをさせていただきます。長野市内の基幹病院の方へ、そのファイザー製のワクチンが届き
まして、小分けをして信越病院に届いて、そこで接種をしていくというに、そういう情
報で聞いてございます。

●議長（森山木の実） 石川議員。

◆5番（石川広之） 対応、対策のほう、よろしく申し上げます。このワクチン接種は、
接種するのは皆さんの自由ということであります。また、この接種する自由ということは、
ワクチンを接種しない人がいるということですよ。その辺のまた感染に対する対策な

令和3年第418回信濃町議会定例会2月第2回会議会議録（4日目）

どは考えているのでしょうか。

●議長（森山木の実） 柄澤住民福祉課長。

■住民福祉課長（柄澤 豊） 議員おっしゃるとおり、任意接種でございますので、接種しない方については接種できない、同意をされない方には接種できないわけでございます。町といたしますれば、有効性等々を考えますと、できるだけ多くの町民の皆さんに打っていただきたいというようなことで、そのつもりでワクチンの供給をお願いをしてまいりたいというふうに思っております。打たない方の感染対策はどうなるのだということでございますけれども、ちょっとそちらの方までは今のところ計画はしていないところでございます。

●議長（森山木の実） 石川議員。

◆5番（石川広之） 対策はしていないというよりも、100パーセント接種するような動きに持って行っていただければよろしいのではないかと思います。これ、ワクチン接種を始めると、1日約100名からというような話もありました。でも3週間後になると第1回目の人が2回目の接種を始めるということですよ。ということは、その3週間目からは100人といた人数が半分になるということですよ。その辺のところの、このスケジュールと言うのか、その辺のところもしっかりとされているのかなというふうにお伺いいたします。

●議長（森山木の実） 柄澤住民福祉課長。

■住民福祉課長（柄澤 豊） その辺も考えてございまして、例えば、最初に100人ずつ打ち始めます。そうすると、高齢者の方3000人から3500人を接種する場合、3週間後は逆に倍になるのです。200人を打っていくということになりますので、その辺は調整をいたします。2か月ないしは、2か月半くらいで接種できるような体制を作りたいな、構築したいなというふうに思っております。そうしますと、例えば、最初の頃は60人とか70人くらいずつ打ち始めて、途中で120人とか170人になるわけですね。そういったふうに接種をしてまいりたいなというふうに考えているところでございます。

●議長（森山木の実） 石川議員。

◆5番（石川広之） 接種の際のスタッフは信越病院と相談してということになっていました。その面でも、この3週間目からはプラスアルファした皆さんが接種に来ること、またその辺でも病院との対応、また病院が逼迫（ひっぱく）しないように対応し

ていただければと思います。

それでは長野県でもゼロカーボン推進事業、二酸化炭素、CO₂の排出、実質ゼロを2050年までに実現を目指すということとしております。阿部長野県知事も県民に訴えております。これは長野市も賛同しています。再生可能エネルギーの利用、転換、省エネ住宅、バイオマス利用による発電などを考え試算すると、長野市では2050年にはゼロカーボンは理論上可能ということです。信濃町でもこれからは進めなくてはいけない道だと思います。このような取り組みについて、質問が上下しましたが、町はどのように考えますか。

●議長（森山木の実） 横川町長。

■町長（横川正知） 今、いわゆるゼロカーボンということでのお話でございます。これはやはり日本だけではなくて、地球温暖化も含めてまさにこの世界的な課題のひとつであろうというふうに思いますし、昨今、政府も、そしてまた長野県もゼロカーボンに向けての取り組み、基本的な考え方も発表と言いますか、進めてきているわけでございます。私ども町もこれ昨年ですか、3月に長野県が、長野県気象非常事態宣言2050ゼロカーボンへの決意というのがありまして、そこに私ども町も賛同させていただきまして、この地球温暖化問題やその解決に向けた取り組みを強調しながら進めて行くということに加盟と言いますか、一緒に行動したいというわけで、今、進めているわけでございます。具体的にはこれからどういう取り組み方法をやっていくか、ある面では、広域的な取り組みも必要でしょうし、あるいは町単独のそれぞれの立場での取り組みが必要になってくるというようなことも当然考えられます。今後、それらを詰めて具体的な取り組みに繋げてみたいと思っております。

●議長（森山木の実） 石川議員。

◆5番（石川広之） このゼロカーボンに向けて、電気ばかりではなくて、車であったり工場であったり、産業全てが関わらなくてはならないものだと思います。当町も大きな面積を有する町です。その中で太陽光発電などをしながらも、電源供給源となり得る市町村だと思います。これには大変、抵抗感がある皆さんも大勢いると思います。その中でも、電源の供給源にもなり得る市町村であるということを確認できますか、お伺いいたします。

●議長（森山木の実） 横川町長。

■町長（横川正知） そういう方向で最大限の努力をしていかなければならないという立場であろうというふうに、当然思っております。具体的に電力の話もありましたけれども、

令和3年第418回信濃町議会定例会2月第2回会議会議録（4日目）

ちょっと余談になりますが、今年の1月に日本全国の中で電力の供給が極めて危機的な状況にあったということが、新聞でも報道されております。これはやはり、ひとつは海外からのその燃料と言いますか、輸入がままならない状況もあったと、併せて日本国内が極めて厳しい寒波に襲われたというようなことで、需要と供給のバランスが非常に切迫したということで中部電力からも私どもの方に見えられて、こういう状況なので、是非またお願いしたいというようなことのお話もあったのも事実です。それらを含めて考えていくときに、電力ばかりではないですが、どういう方法を取れるか、先ほど言いましたように、ひとり一人がどういう行動を取っていけるか、企業は企業として、あるいは役所は役所として、団体は団体としてどういう取り組みができるかと、この辺をこれから、具体的な詰めとして、それぞれ取り組み方法を検討していかなければいけないのではないかなというふうに思います。

●議長（森山木の実） 石川議員。

◆5番（石川広之） 先の方の質問に、当町もこの電力購入について、町は、中部電力以外から電源供給を受けていますが、現状はどのような件数であったり、また量的にはどのようになっていますか、お伺いします。

●議長（森山木の実） 小林総務課長。

■総務課長（小林義之） それでは電力の関係につきまして、私の方から説明をさせていただきます。平成26年に電力小売りの全面自由化がされたことによりまして、当町におきましても、議員さんからもご提案をいただく中、平成28年度から新電力を導入しております。令和2年度現在では、高压電力が12施設、低压電力で73施設において電気供給の契約を締結して供給をいただいているところであります。供給量につきましては、高压電力12施設のうち、役場庁舎についてのみ回答させていただきますが、庁舎にありましては、その年の冬期間の気候によって増減もありますが、概ね年間、約15万キロワットアワーの使用となっております。冬期間を除く季節については、ほぼ横ばいで推移をしているところでございます。

●議長（森山木の実） 石川議員。

◆5番（石川広之） ほとんど町関係の施設、新電力で供給されているようです。この新電力になって不便だの不自由なことはなかったのか、また対応、対策など取ることがあったのか、お伺いします。

●議長（森山木の実） 小林総務課長。

■総務課長（小林義之） 公共施設におけます電気の供給につきましては、行政コストの削減も元より、災害時の対応を含めて、安定性を重視しなければならないものと考えております。町長からもありましたように、全国的に電力需要が高まったというようなこの冬でありましたけれども、当町におきましては、選定先の条件といたしまして、自社発電を持つ大手の電力会社を条件としておりますので、料金の値上げですとか、安定した電力供給が図れないというような、そのような事態については、今現在、不都合が生じているという事例はないものでございます。

●議長（森山木の実） 石川議員。

◆5番（石川広之） 新電力の電気料に関してですけれども、近頃、非常連動性という言葉の中で、電気料が異常なほど価格が上がったと報告されたりしています。これも石炭からLNGへの移行によるエネルギーの争奪戦による一因と挙げられたりしています。またコロナ禍での家庭での需要が増えたことも考えられています。町は一般家庭とは契約内容が違っているのかなというふうに思いますが、町もこれからこの新電力を有効利用して、電源の安定供給を図るということによろしいでしょうか、お伺いします。

●議長（森山木の実） 小林総務課長。

◆総務課長（小林義之） 今現在、新電力に導入をいたしましたけれども、今のところ不都合等は特に生じておりません。金額的な部分におきましては役場庁舎におきましては、年間で30万円ほど減額になっておりますし、高圧の施設につきましても12施設合わせますと年間380万円ほどの削減になったところでございまして、今のところ新電力で不都合等は生じていないところでございます。

●議長（森山木の実） 石川議員。

◆5番（石川広之） 分かりました。それでは続きまして、この令和3年3月の町議会議員選挙から選挙に公営制度が実施されます。この制度により候補者の選挙運動経費の負担ができるだけ軽減することができる。また、立候補の機会の均等を図ることなどありますが、この制度が始まることにより、地方議会の議員の成り手が不足、成り手がなかなかなかったということから、成り手不足が解消するようなイメージはあるのでしょうか、お伺いいたします。

●議長（森山木の実） 小林総務課長。

令和3年第418回信濃町議会定例会2月第2回会議会議録（4日目）

■総務課長（小林義之） 今回の公職選挙法の改正によりまして、町の選挙公営制度導入につきましては、お金のかからない選挙を実現すると共に、候補者間の選挙運動の機会均等を図ることを目的としておりますけれども、同時に議員の成り手不足解消の一助になればというふうには考えております。

●議長（森山木の実） 石川議員。

◆5番（石川広之） 今回の3月に行われる町議会議員選挙、なかなか成り手不足、議会に手を挙げて出て来るぞという皆さんがなかなか見えないかなというふうに思われます。その中でも今回、この公営制度により、それぞれの候補者の負担が軽減されるということは本当に良いかなというふうに思います。またこの制度、利用する候補者と、この制度利用しない候補者には、何か町とすれば指導、指導という言い方もないですね。どのようにお考えですか。

●議長（森山木の実） 小林総務課長。

■総務課長（小林義之） 今回、選挙運動で使用する自動車の借り上げ、燃料費、また運転手の雇用ですとか、ビラやポスター等の経費に公費制度を導入するわけですが、上限額はありますけれども、公費で使用できるようになったところであります。1月にも説明会をさせていただきましたけれども、ただ、この公営制度を活用するかしないという部分につきましては、候補者の選択によるものでございますので、選挙管理委員会としましては、その候補者から制度を利用する届け出があれば、法、条例に基づきまして公費負担を行うものでございます。

●議長（森山木の実） 石川議員。

◆5番（石川広之） この制度、利用する、しないは、候補者の費用の請求は任意ということですね。この請求が任意ということは、請求する方としない方、この選挙の戦い方もまた、ひとつの違いが見えてくるのです。私は公営制度を利用しないというふうに、言って良いのかなと、その辺はどうお考えですか。

●議長（森山木の実） 小林総務課長。

■総務課長（小林義之） 先ほども言いましたけれども、その辺につきましては、候補者の任意でありますので、それを公約として選挙戦に臨むかどうかにつきましては、候補者の判断によるものと思っております。

令和3年第418回信濃町議会定例会2月第2回会議会議録（4日目）

●議長（森山木の実） 石川議員。

◆5番（石川広之） 候補者の判断ということで、しっかりとお伺いしました。この制度、それぞれの候補者にとって有意義であって、また候補者がまた町の要請にしっかりと携われるようなことで、また候補者が大勢出て来ることを目的であったり、それぞれの皆さんのこれからの制度だと思います。また有効に活用していただければと思います。これで横川町長さん、また、森山議長さん、また関係する皆さんのご指導いただき、誠に感謝申し上げます、私の最後の一般質問といたします。どうもありがとうございました。以上です。

●議長（森山木の実） 以上で石川広之議員の一般質問を終わります。この際申し上げます。昼食のため、午後1時まで休憩といたします。

（午前11時47分 終了）